

韓国農村集落における風水景観に関する研究 —写真と線画による風水景観分析—

福祉環境工学科建築コース 0756050 山口 泰佑
(指導教員:佐藤 誠治, 姫野 由香)

研究背景と目的

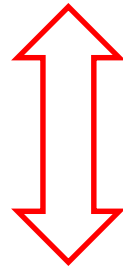
風水という理論は、地形と人間の営みを結びつける極めて環境重視の作法でそこに生まれる景観は私たちの感性に訴えかける。



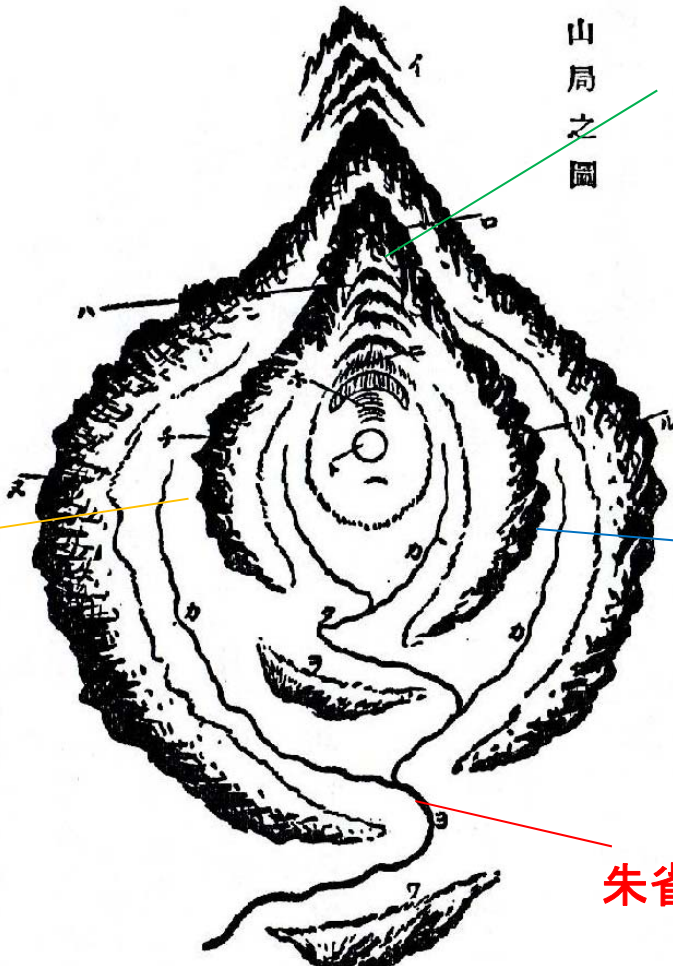
これはなかなか理論的には説明がつかないものであるが、景観を研究する人間には避けては通れないものである。

本研究では、風水によって構成された環境を、
景観的な視点から分析し、風水景観の構成を
明らかにすることを目的とする。

しかし、都市では風水の要素を抽出することは困難



自然と人の関係がより明瞭であると考えられる農村集
落を対象にする



山局之圖

玄武(山)

主山・穴

白虎(山・道)

青龍(山・川)

朱雀(川・平面)

案山

ヌヨカヲテルヌリチトヘホニハロイ
 内外水朝案外外内内穴明眉頭入主祖
 水水 青白青白 宗
 口口 山山龍虎龍虎 堂砂驕首山山

風水の構成は、山・水・方位の三者によって成立するとしている。

2. 研究の方法

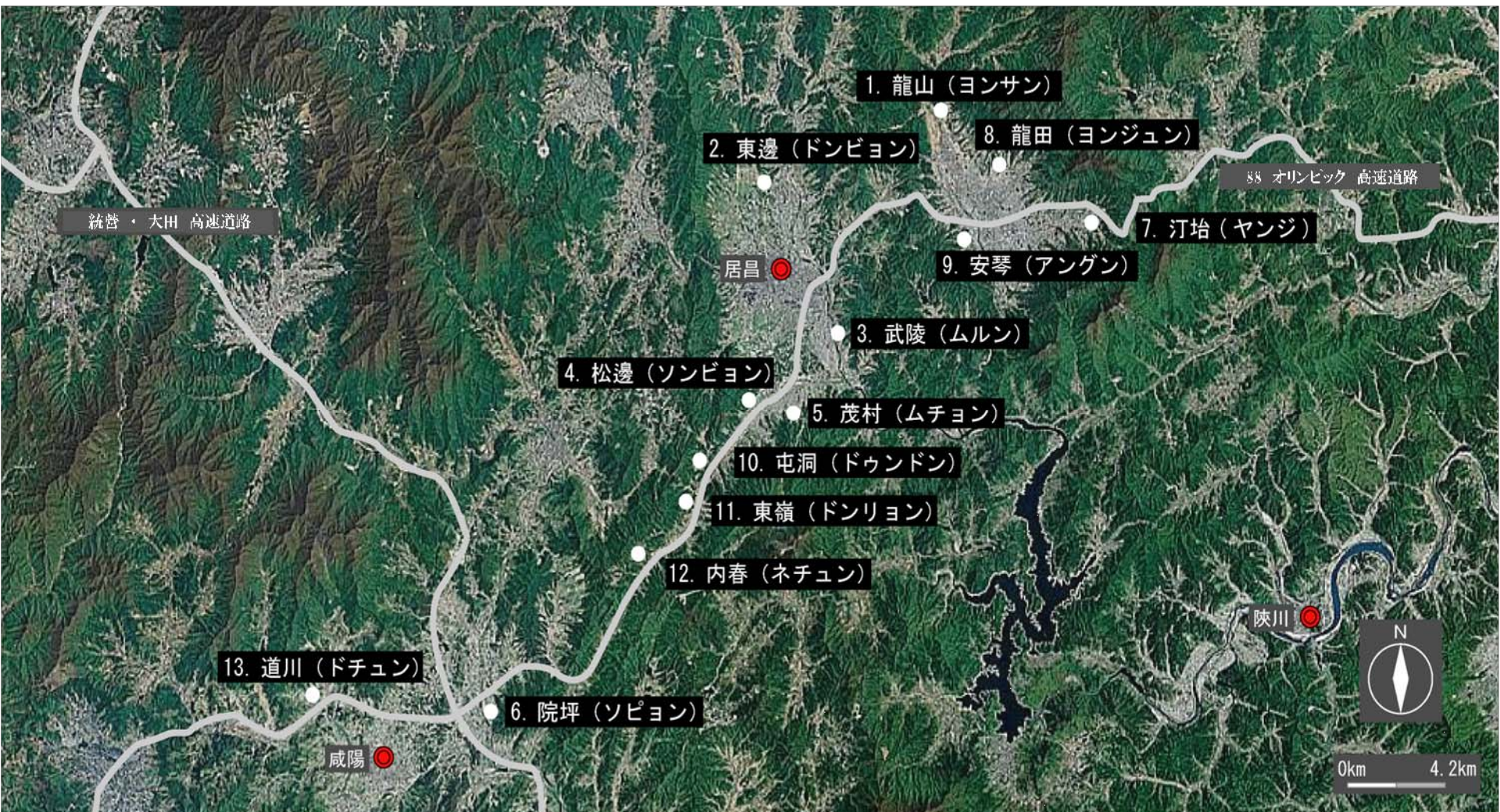
- ①第一に風水景観を有する集落の選定を行う。
- ②対象集落で景観調査を行う。
- ③それによって得られた結果をもとに研究を進める。

韓国: 風水の文化が色濃く残り, 地形的に風水に好条件

範囲: 88オリンピック高速国道沿いの地域
地形と集落の位置関係とそれによって受ける景観的な特性が極めて風水を彷彿とさせられた。その後の調査でさまざまな文献や伝聞により, この地が風水的に良い土地であるといわれていることが分かった。

集落: 既往研究の「環中国海の民俗と文化4風水論集」において, 韓国の農村集落を地形ごとに7つに分類している。本研究ではこの事前にこの7類型をもとに「Daum」上で13の集落を調査対象とした。





フィールドを韓国の慶尚南道から全羅南道にかけての
88オリンピック高速国道沿いの地域に設定

集落調査

調査内容は、**景観写真の撮影**と、**集落の全体構成**、**要素分布の把握**を**目視**、**集落の住民へのヒアリング**をもとに行った。

ここでまず、ヒアリング調査の結果として、全ての集落で住民は自分たちの集落は風水に基づいてつくられていることを認識していた。

集落景観の地形構造的特徴

閉鎖型

大分類

開放型

蔵風得水型

山間型


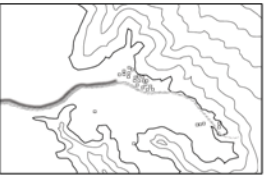

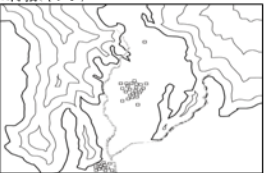
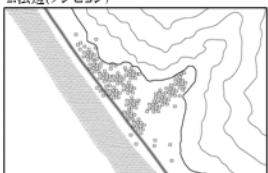
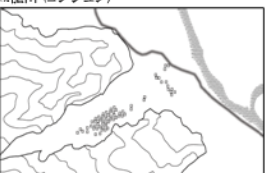

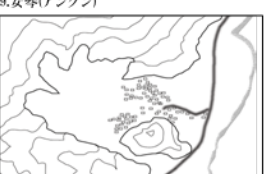

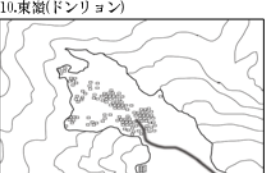
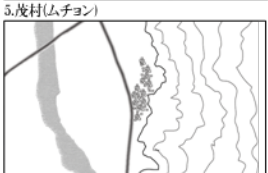





谷奥型

細分類

背山臨水型

背山型

河川
型
合流点型

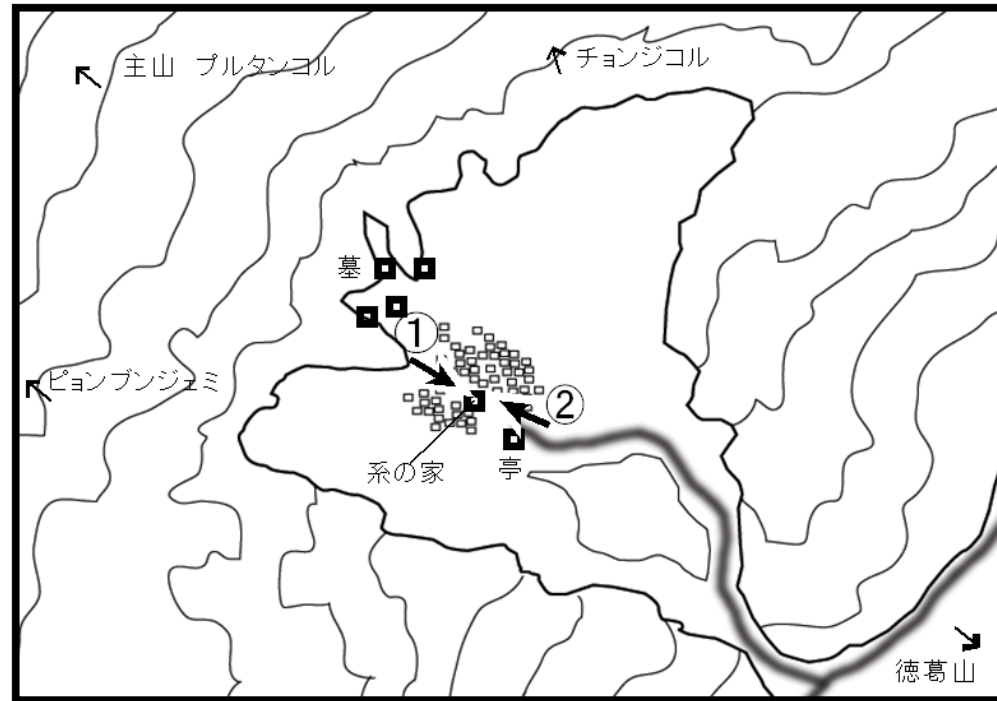
	開放型	閉鎖型	
合流点型	 1. 龍山(ヨンサン)	 7. 汀拍(ヤンジ)	谷 奥 型
背 山 型	 2. 松港(ソビョン)	 8. 龍門(ヨンジュン)	
背 山 臨 水 型	 3. 武陵(ムルン)	 9. 安峯(アングン)	高 風 得 水 型
	 4. 東邊(ドンピョン)	 10. 東瀆(ドンリョン)	
	 5. 茂村(ムチョン)	 11. 屯洞(トゥンドン)	
河 川 型	 6. 院坪(ソビョン)	 12. 内春(ネチュン)	山 間 型
	 13. 道川(ドチュン)	 道  川  住居	

景観構成要素の特徴とその分布

No	大分類	細分類	集落名	墓の位置	亭の分布タイプ	樹種と分布タイプ	祠堂	系の家	書院	集会所	教会
1	開放型	合流点型	ヨンサンマウル	北の山	川辺・片端・入口	榿・桜 亭と同位置 集落内	集落後方	集落後方	×	集落中心	なし
2	開放型	青山型	ソンピョンマウル	主山中腹	片端	榿 亭と同位置	×	×	×	集落中心	なし
3	開放型	青山臨水型	ムルンマウル	遠い所	入口・川辺・農地	榿 亭と同位置 集落内	集落中心	集落後方	集落中心	集落端	集落中心
4	開放型	青山臨水型	ドンピョンマウル	分散	入口・川辺	榿 亭と同位置	×	集落後方	×	集落中心	集落中心
5	開放型	青山臨水型	ムチョンマウル	主山裾	川辺・片端・入口	銀杏 亭と同位置	×	×	×	亭と同位置	なし
6	開放型	青山臨水型	ソピョンマウル	遠い所	片端・入口	榿 亭と同位置	×	集落後方	×	集落中心	なし
13	開放型	河川型	ドチュンマウル	遠い所	片端	榿 亭と同位置	集落内	集落内	×	集落中心	なし
7	閉鎖型	谷奥型	ヤンジマウル	主山中腹	入口型	榿 亭と同位置	×	集落後方	×	集落入口	なし
8	閉鎖型	谷奥型	ヨンジュンマウル	主山中腹	入口型	? 亭と同位置	×	×	×	集落入口	なし
9	閉鎖型	蔵風得水型	アングンマウル	主山裾 分散	入口型	榿 亭と同位置	×	集落内	×	集落中心	なし
10	閉鎖型	蔵風得水型	ドンリョンマウル	分散 集落内	入口型	榿 亭と同位置	×	×	×	集落中心	なし
11	閉鎖型	山城型	ドウドンマウル	中腹 分散	邸宅内	×	×	集落内	集落入口	集落入口	なし
12	閉鎖型	山城型	ネチュンマウル	主山中腹	入口型	榿 亭と同位置	×	集落内・後方		集落外共有	なし

1. 墓の位置;閉鎖型はすべて近く, 開放型では7集落中4集落が離れた場所。
2. 亭の位置;閉鎖型入り口にある場合が6集落中5集落で, 開放型はすべて川辺や片端。
3. 樹種;閉鎖型ではすべてケヤキ, 開放型ではケヤキ以外の樹も3。
4. 祠堂・系の家・書院;系の家と書院はほぼ同数だが, 祠堂は閉鎖型にはなく, 開放型には3集落。
5. 集会所;閉鎖型では入り口にある場合が5割, 開放型では中心にあるのが7集落中5集落。
6. 教会;閉鎖型では教会は一つも見られず,

要素と地形との関係性が生み出す景観



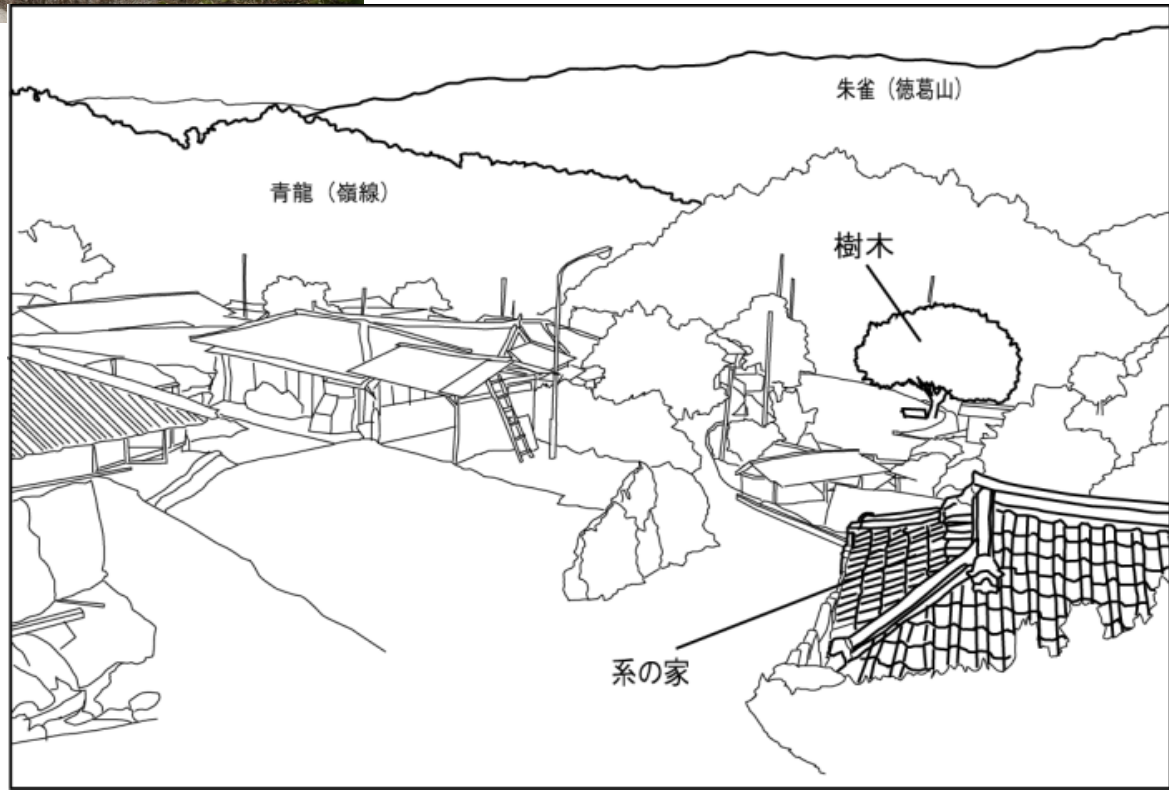
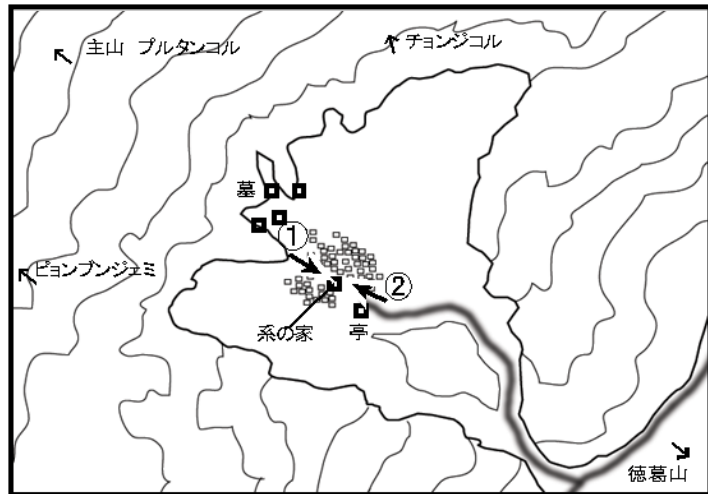
閉鎖型

山間型

ネチュンマウルのダイアグラム

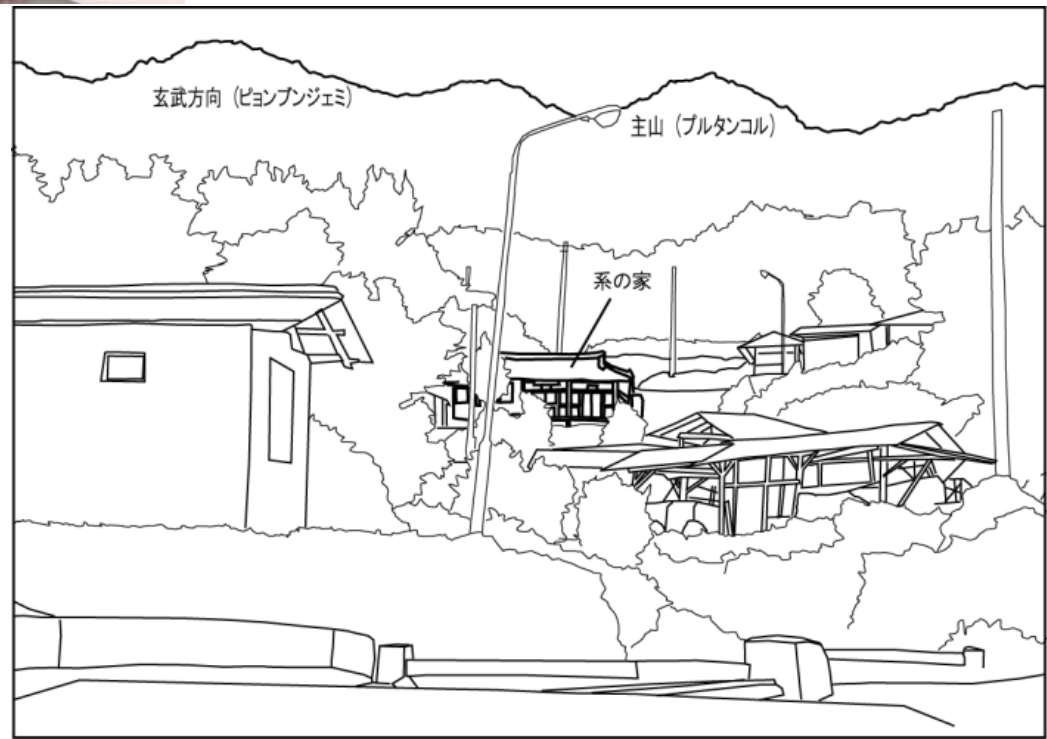
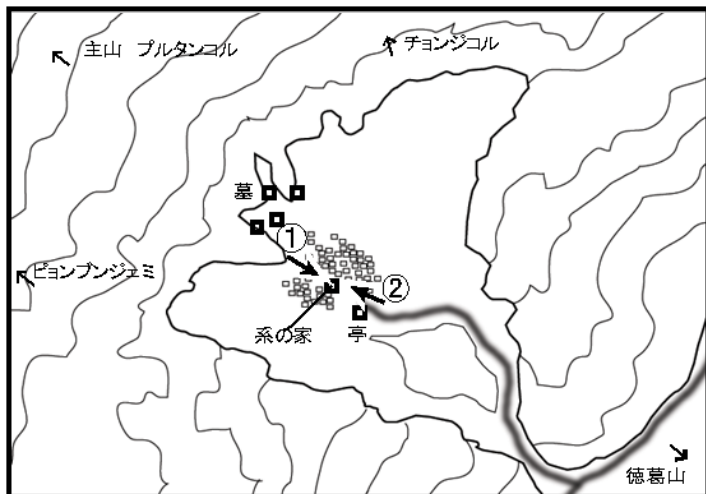


集落後方から亭に向かって見下ろした景観で、集落内の系の家のすぐ後方である。ここからは、亭をはっきりと確認できるだけでなく、青龍方向の嶺線と朱雀方向の徳葛山を一望できる。





亭の真下から主山を見上げた景観である。ここからは集落内にある特徴的な系の家が見え、さらにその上に大きく広がる主山方向の山々が大きな存在感を示している。



総括

本研究で調査した農村集落では地形構造や集落構成、風水的な要素の分布において確かに風水の理論に適合しており、そこに風水を感じる事ができた。

風水の理論に実際に適合している農村集落であり、住民たちの風水理論によってつくられた集落だという認識も高く、それを誇っていることは人の心と景観が常に同調しているということである。その地にすむ人々が意識する理論によって構成された景観に常に抱かれることは人々に安心感や安堵感を与えているのではないだろうか。